

<担い手の育成・確保に取り組む事例>

○畜産経営の担い手育成

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道 <small>あしよろぐん</small> 足寄郡 <small>あしよろちょう</small> 足寄町 <small>もり</small> 森のまきば			
協定面積 344.0ha	田	畑	草地 (100%)	採草放牧地
			344.0ha	
交付金額 632万円	個人配分			57%
	共同取組活動 (43%)	集落の管理運営 (役員報酬)		4%
		農業生産活動 (農地・鹿柵・農道管理、廃プラ処理)		17%
		農業生産活動の体制整備 (草地整備、鹿柵組合、担い手育成)		15%
その他活動 (役員会、事務費等)		7%		
協定参加者	農業者 10人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全域で作成済み			

2. 取組に至る経緯

本集落は、昭和22年の戦後開拓入植により、大豆、小豆などの畑作営農が中心であったが、度重なる冷害により離農が相次ぎ、徐々に畜産専門経営に移行し現在に至っている。これまで、担い手を確保しつつ地域農業を維持発展させていくため、協定を締結し、畜産経営の条件整備等に取り組んできた。

当町は「放牧酪農推進の町」を宣言しており、町として、離農者の畜産経営を放牧酪農を目指す町外からの新規就農者に継承する取組を行っている。

3. 取組の内容

共同取組として、日常的な農地・農道・鹿柵の見回り・補修など農地の保全に努めている他、草地の植生改善により良質な自給飼料の増産を図るため、種子代を助成して草地更新を推進している。

その他、地域の畜産経営を担う認定農業者育成に向けた経営能力向上に向け、協定参加者が、経営に関する知識・教養の習得のための研修会等に積極的に参加している。

また、交流面での取組として、地域で生産された牛乳などを使って、小学生を対象とした調理実習を行うなど、食べものを通して学校教育とも連携している。

女性部では、集落内の人々と新規就農者との交流を目的とした料理講習会も開催している。



【総会の様子】



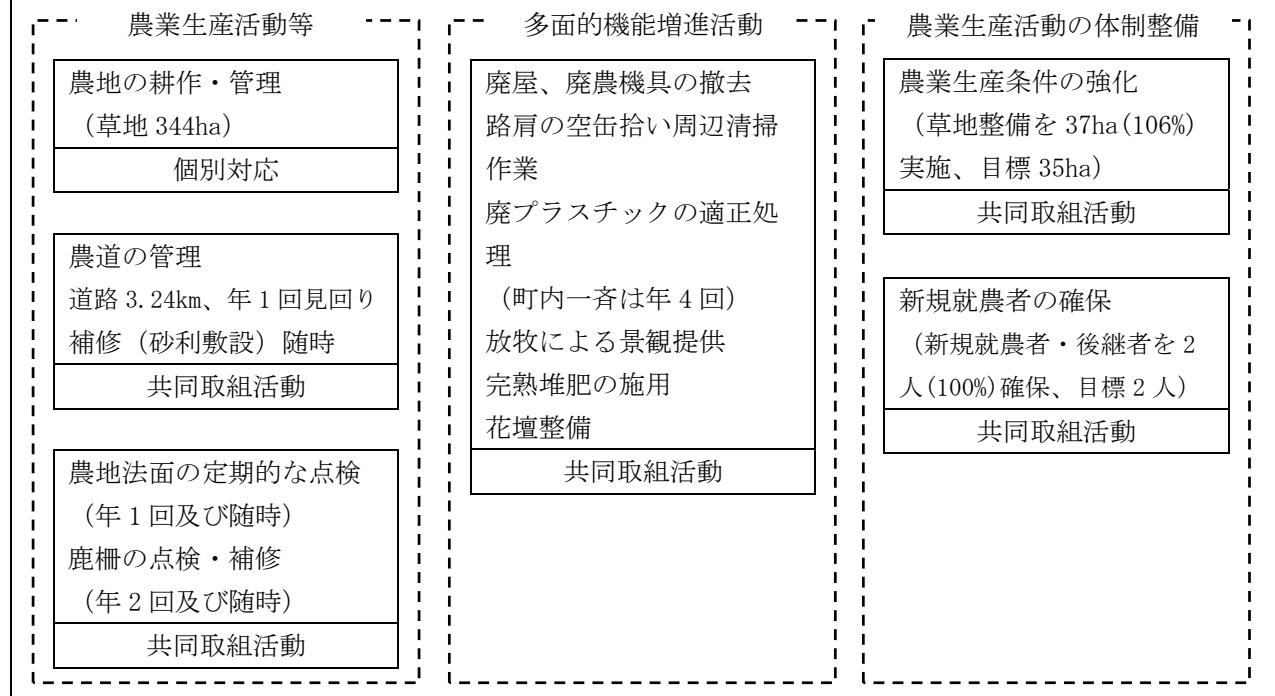
【児童（小学校）との調理実習】

### [集落の将来像]

集落協定活動が14年目に入り、徐々に役員が若手後継者に移行していること、高齢で離農した後に新規参入者が入ってきていること、集落の子供の数が増えてきているなど、集落に活気が生まれている。個々の経営面では、今後も、複式簿記記帳と青色申告を行うなど経営管理に重点を置き、経営の安定に努めていく。

### [将来像を実現するための活動目標]

- 農業生産条件の強化（土壌診断に基づく草地更新）
- 新規就農者の確保・農業後継者の育成（研修会の実施及び受入体制の整備）
- 認定農業者の育成（研修会の実施及び農業経営改善計画の策定支援）
- 共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備（牧草管理作業及び家畜飼養作業の支援）
- 生活環境の整備（花壇整備・合併浄化槽整備）



### [集落外との連携]

- 中山間地域等直接支払交付金制度に取り組む集落は32集落あるが、年2回の集落代表者会議を開催し集落間の情報交換を行い、集落活動の向上を図っている。
- 毎年、町民センターで集落活動を紹介するパネル展示(2週間)を行い、町民の理解を深めている。

## 4. 今後の課題等

集落構成員が10名であり、さらに集積が進むと集落の維持そのものが難しくなっていくことが想定されるため、個人配分を1/2以上として個別対応による課題の解決を図りつつ、個人では解決できない共通の課題について、集落構成員が意見を出し合って解決に努めていく。

### [第2期対策の主な成果]

- 農業生産条件の強化では、草地整備(更新)を行うことにより、草地の生産性向上が図られた(H17:0ha、H21実績:15ha)。
- 新規就農者の確保では、研修会実施等の受入体制の整備により、平成21年に1人が新規参入した。
- 担い手育成の研修会・学習会を開催することにより、技術向上が図られた。